

**カプコンとフジオプロが夢の共演！
『バイオハザード』の世界で、あの“バカボン”が
サバイバルホラーするのダ!!**

**バカハザ
～少年バカボン × バイオハザード～**

iOS/Android 用ゲームアプリ配信！

株式会社KADOKAWA(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:松原真樹)アスキー・メディアワークスが電子書籍にて刊行しているギャグマンガ『少年バカボン』(原作/赤塚不二夫 漫画/吉勝太)と、株式会社カプコン(本社:大阪府大阪市中央区、代表取締役社長:辻本春弘)の発売するサバイバルホラーゲーム『バイオハザード』がコラボレーションしたiOS/Android用ゲームアプリ『バカハザ ～少年バカボン × バイオハザード～』が、10月25日(火)より配信開始となりましたのでお知らせいたします。

ゲームアプリ『バカハザ ～少年バカボン × バイオハザード～』は、『バイオハザード』の1作目が1996年の発売から20周年、漫画家・赤塚不二夫の代表作『天才バカボン』が来年50周年と、それぞれの作品が節目を迎えることを記念して実現した、夢の異色コラボレーションとなります。

『バカハザ ～少年バカボン × バイオハザード～』は、ゲーム『バイオハザード』の1作目をベースとした世界を舞台に、『少年バカボン』に登場するバカボンを始めとする個性的なキャラクターたちが、“バカ怖い”物語を繰り広げるホラーアクションアドベンチャーです。

■ゲームアプリ『バカハザ ～少年バカボン × バイオハザード～』について

【ゲームタイトル】バカハザ ～少年バカボン × バイオハザード～

【パブリッシャー】ゲームドウ/KADOKAWA

【対応OS】iOS/Android

【価格】無料 ※アプリ内課金あり

【配信開始日】2016年10月25日(火)

【公式サイト】<http://bakahaza.com/>

【ストーリー】

バカ出小学校の遠足中に、森に迷い込んだバカボンたち。謎の遺体を発見し、異形の野犬に襲われてしまう。森のなかを逃げまわるうちに、古びた洋館にたどり着いたのだが……。



iOS版 : <https://itunes.apple.com/jp/app/bakahaza/id1155744920?l=ja&ls=1&mt=8>

Android版 : <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.gamedo.bakahaza>

【ゲームの特徴】

- マップ、BGM、武器、アイテムなど、すべて『バイオハザード』1作目をベースとしたホラーアクションアドベンチャー
- グラフィックは、どこか懐かしい8ビット風ドット絵を採用
- 最近のスマホゲームには珍しい、エンディング(マルチエンディング)あり
※本ゲームはソーシャルゲームではありません。
- ゾンビと対峙したら、武器で攻撃。スマホ画面をタップするだけの簡単操作なので、アクションが苦手な人でも簡単にプレイが可能



『バイオハザード』第1作をオマージュ(?)したゾンビや恐怖シーンが続々登場します!(ゲーム画面イメージ)

『バカハザ』公式サイト : <http://bakahaza.com/>

【『バカハザ ~少年バカボン × バイオハザード~』主要キャラクター紹介】

バカボン:バカボンのパパの息子。一時の気の迷いから東大を目指して勉強していたが、パパのおかげで無事に元のおバカに。

アホヤ:大豪邸に住んでいる、バカボンの永遠のライバル。父親はごく普通の大富豪で、天才バカのパパをうらやましく思っている。

アホナ:学校の出来事をレポートしまくる、ジャーナリスト部部长。ジャーナリストをジャーナリ“トス”と間違えて覚えてしまっている。

ウグイスちゃん:放送部部长もつとめる、バカ出小のマドンナ的存在。

ミニマツくん:デベソが自慢! 声は小さい。迷い込んだ洋館で、悲惨な目に遭う……。

ナガイくん:顔は長いけど、気は短い。ミニマツくん同様、ヤバイことに……。

マルネくん:顔も目もマルい。グレるとワルオになる!?

フシギちゃん:いつもフワフワしてる不思議な女の子。

カクガリくん:豆腐屋さんの息子。直角が大好き。

ナカジー先生:バカボンのクラスの担任で、いつもニコニコしている。怒ったところを誰も見たことがない。



ヒンミツ先生:とてもキレイで人気のある女教師。ナカジー先生とお付き合いしているらしいけれど、それってホント？

バカボンのパパ:バカ田大学を首席で卒業した、バカの最高峰。「これでいいのだ!」というパパのセリフは、日本中の人知っている。



【コピーライト】

©CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

©Fujio Akatsuka/Fujio Productions

©KADOKAWA CORPORATION 2016

©2016 Gamedo,Inc.

↑ キャラクタードット画イメージ

■ 『少年バカボン』 とは

「赤塚不二夫生誕80周年記念」企画の1つとして生まれた漫画作品(KADOKAWA刊「デンゲキバズーカ!!」2014年12月号～2016年3月号にて連載)。『天才バカボン』の息子キャラ「バカボンのパパ」のような“おバカ”キャラになって、通っているバカ田大学附属「バカ出(で)小学校」を舞台に大活躍するという作品です。懐かしの『天才バカボン』に負けず劣らずの超個性的なクラスメイトとアナーキーな赤塚魂が炸裂するスーパーギャグ漫画で、吉勝太(フジオプロ)による、描き下ろし完全新作コミックとなります。

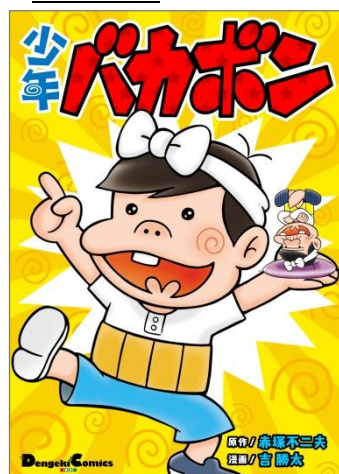
■ コミック『少年バカボン』が電子書籍で配信中

完全新作コミックで「バカボン」が“電子書籍限定”で大復活なのだ！

赤塚不二夫の不朽の名作が、ついに復活！ かつてはパパの陰に隠れていたバカボンが主人公に返り咲き、完全新作『少年バカボン』として日本中をまたまた笑いの渦に巻き込みます！ 278ページの大ボリュームでお届けする、おトクで、懐かしくて、超おバカな1冊は、赤塚ファンなら必読です。

電子配信限定販売でお贈りいたします。

● 書誌情報



【書名】少年バカボン

【レーベル】電撃コミックスEX

【漫画】吉勝太

【原作】赤塚不二夫

【定価】500円+税

【仕様】全278ページ

【発売日】2016年10月6日 ★電子書籍限定販売

【発行】株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス

©赤塚不二夫 /フジオプロ

← 『少年バカボン』表紙

●電子書籍配信サイト

- BOOK☆WALKER <https://bookwalker.jp/de20b3b31c-c9fa-48eb-b3db-c69bce6238da/>
- amazon Kindle <https://www.amazon.co.jp/dp/B01LZ1I4CO/>
- ニコニコ動画 <http://seiga.nicovideo.jp/book/series/206970/>
- 紀伊国屋 Kinoppy <https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-08-EK-0362930>
- BookLive! https://booklive.jp/product/index/title_id/400511/vol_no/001
- honto http://honto.jp/ebook/pd_28118415.html
- dブック http://book.dmkt-sp.jp/book/detail/book_type/010/title_id/0000218586/
- Google Playブック <https://play.google.com/store/books/details?id=BxQtDQAAQBAJ&hl=ja>
- 楽天 kobo <http://books.rakuten.co.jp/rk/c00234996ef43dc7afd1a2c6fbd2ec98/>
- ブックパス https://www.bookpass.auone.jp/pack/detail/?iid=LT000065562000602271&skip_flag=true
- Reader Store <http://ebookstore.sony.jp/item/LT000065562000602271/>
- YAHOO! ブックストア <http://bookstore.yahoo.co.jp/shoshi-664248/>
- mibon <http://mibon.jp/i-2121705.php>
- LINEマンガ <https://manga.line.me/book/detail?id=0023if3d>
- セブンネットショッピング <http://7net.omni7.jp/detail/5110349681>
- アニメイトブックストア http://www.animatebookstore.com/products/detail.php?product_id=281105
- DMM電子書籍 <http://book.dmm.com/detail/b507bkaam00305/>
- コミックシーモア <http://www.cmoa.jp/title/120896/>
- DIGITAL e-hon <http://www.de-hon.ne.jp/digital/bin/product.asp?sku=3030000013637900100E>
- ヨドバシ・ドット・コム <http://www.yodobashi.com/ec/product/100000086600464563/index.html>
- ebookjapan <http://www.ebookjapan.jp/ej/381835/volume1/>
- iBooks <https://itunes.apple.com/jp/book/shao-nianbakabon/id1161279605?l=en&mt=11>

<ご参考>

■アスキー・メディアワークスとは

アスキー・メディアワークスは、小説、コミック、ゲーム、ホビー、テクノロジーなど、エンターテインメントやPC/IT分野を中心とした事業を展開。出版を基盤に、ウェブ・モバイル、電子書籍、アプリ、映像、音楽、グッズ、ゲーム、イベントなど、メディアを超えてコンテンツをプロデュースしています。

- KADOKAWA公式サイト: <http://www.kadokawa.co.jp/>
- アスキー・メディアワークス公式サイト: <http://asciimw.jp/>

以上

【本件に関する報道関係からのお問い合わせ先】

株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
<http://asciimw.jp/>